

12月16日



かじたま

鯉沢中学校
学校だより

令和元年度

(鯉 中 魂)

校長 伊藤 正人

12月

学校教育目標

「ふるさと鯉沢を愛し、

活力にあふれ、人間性豊かな生徒の育成」

校 訓

「自主・創造」

自転車利用の開始

来年3月の春休みから、生徒の登下校の手段として、自転車の利用を認めることとなりました。この利用は日常的な通学にはではなく、土日や夏休みなどの長期休業中の部活動や学級活動などの場合に限ります。また、スクールバスが利用できる五開地区と中部地区を除いた町内在住生徒が利用可能となります。利用につきましては、ご家庭からの申告が必要となります。詳細につきましては生徒や保護者に、お伝えしてまいります。利用を認める条件としては、以下の3つが大きなこととなります。

- ・整備された自転車であること。
- ・自転車は保険に加入していること。
- ・ヘルメットを着用すること。

自転車の利用につきましては、安全の問題も考えられますので、これからも慎重に対応していきたいと思えます。ご理解とご協力をお願いします。



県アンサンブルコンテスト

12月14日(土)、YCC 県民文化ホールにおいて県アンサンブルコンテストが行われ、鯉沢中吹奏楽部の6名の生徒が参加しました。楽曲「なぞのたからばこ」(管楽打楽器6重奏)を、息の合った演奏で発表しました。練習でうまくいかないことが多く、苦勞の連続でした。本番は予想以上の出来栄で、うれしい驚きでした。始まる前はドキドキだった生徒も、終わった後はホッとして、うれしそうな笑顔を見せていました。保護者の皆さまにも、応援やお手伝いをしていただき大変助かりました。ありがとうございました。



冬季生活指導推進会議

12月5日（木）、町民会館において冬季生活指導推進会議が開催されました。冬休みを迎えるにあたって、各小中高校と富士川町町民会議から資料が出され、鰺沢中の望月先生が鰺中の「冬休みの過ごし方」について、参加者に説明をしました。

会議の後半には増穂中と鰺沢中の代表生徒が意見発表を行いました。鰺中は安藤綾菜さんが「心ない行為を考える」という題の、あおり運転をテーマとした発表を行いました。些細なきっかけから感情を荒立て、あおり運転をしてしまう人に呼び掛ける内容で、「私はあおり運転をしません」という綾菜さんの宣言が印象に残りました。立派な発表態度もよかったです。



アフリカ救援米活動

11月28日（木）、学友会中心に毎年取り組んでいるアフリカ救援米の袋詰め・積み込み作業に、学友会役員5名が参加しました。全県下から集められたお米は8トンを超え、30

kgの米袋263袋になりました。峡南地区だけでなく、北杜市、甲府市からも小中学生が集まり、みんなで袋詰めやトラックへの積み込みを行いました。このお米は、横浜から船でアフリカ・マリ共和国へ送られます。マリの人々は、皆さんが想像するよりもはるかに喜び、また、感謝しています。峡南地区から始まった30年以上になるこの取組は、多くの人を巻き込みながら県内全体に広がり、かけがえのないものになっています。今年も皆様のご理解、ご協力、ありがとうございました。



ご協力ありがとうございました

人権教室

12月3日（木）、2年生が鰺沢保護司会による人権教室を行いました。講師は保護司の古谷三千雄先生と川名湛忍先生です。古谷先生は保護観察官と保護司の仕事についてわかりやすく説明してくれました。「罪を犯した人が社会に戻って再出発することは難しいことがある。だから私たちはがんばっています。」川名先生はギターの弾き語りを交えながら、「人は死んだらどうなるのか」という問いかけをもとに、ひとりひとりの命はかけがえがないことを伝えてくれました。

2年生の小林未奈さんが最後に感想を発表しました。「保護司という仕事を初めて知ったこと、罪を悔い改めて再出発しようとする人に自分は何ができるのだろうかと考えさせられた。」という言葉が印象に残りました。

